

特集：地方鉄道の経営努力と公的支援

[地域の活力を支える三岐鉄道 三岐線・北勢線]

Chronicle

「鉄道のあるまち」を次世代につなぐ 三岐線・北勢線の歴史

三重県北部、四日市市と桑名市を拠点として
員弁川の両岸で「三岐線」と「北勢線」の2線を経営する三岐鉄道。
産業鉄道として誕生した三岐線は、今も貨物輸送と旅客輸送を併せて担い、
2003年に近鉄から経営移管された北勢線は、公民連携の下に再生を果たし、
「鉄道のあるまち」を次世代へとつないでいる。

写真提供 / 三岐鉄道株式会社



三岐線

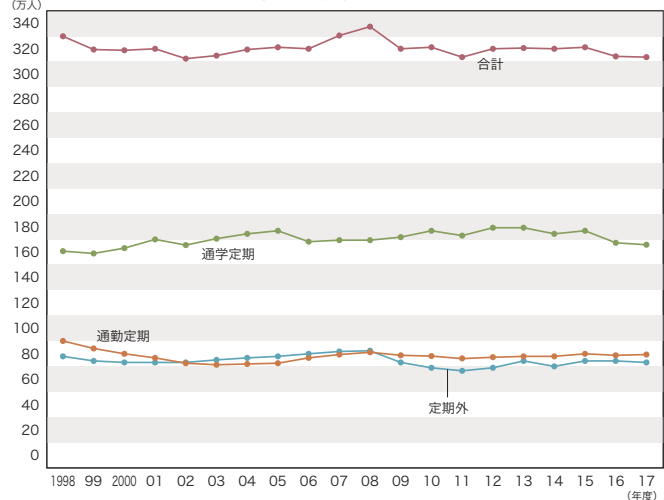
三岐線 / 富田 - 西藤原 26.5km ・ 駅数 15
近鉄連絡線 / 三岐朝明信号場 - 近鉄富田 1.1km ・ 駅数 1
旅客輸送は近鉄富田 - 西藤原 26.6km

三岐線 旅客輸送活性化施策の取り組み

- 1970年6月25日 近鉄富田 - 三岐朝明間の近鉄連絡線が開業。
- 1986年3月25日 大安駅開業。大安町中央図書館（現・いなべ市大安図書館）を併設、駅前広場、無料駐車場を整備。
- 1988年1月7日 旅客列車ワンマン運転開始。
- 1988年3月30日 四日市大学の開学（4月10日）に合わせ、暁学園前駅の駅舎を新築開業。駅ビル、無料駐車場を整備。
- 1989年3月31日 三岐朝明駅の旅客営業を廃止し、三岐朝明信号場に名称変更。
- 1989年11月26日 旅客車両の冷房化を開始し、冷房付き3両編成電車を導入。
- 1990年11月2日 炭酸カルシウム・フライアッシュ（石灰灰）の貨物輸送を開始。
- 1994年12月3日 旅客列車の最高速度を60km/hから70km/hに引き上げ。
- 1997年4月1日 大長駅を移転・改称し、北勢中央公園口駅を新築開業。電車内に自転車を無料で持ち込めるサイクルバスを開始。
- 2000年7月24日 中部国際空港向けの埋立土砂輸送を開始。
- 2001年7月23日 西藤原駅前に三岐線開業時に使用されたSL等の静態保存、ミニSLの無料運行を行う「ウィステリア鉄道」を開設（15年3月閉鎖）。
- 2002年4月28日 暁学園前駅駅舎2階に鉄道おもちゃを展示販売、実際に遊ぶこともできる「鉄道おもちゃ屋」を開設（08年4月閉店）。
- 2002年12月21日 中部国際空港向けの埋立土砂輸送を終了。

- 2003年3月13日 朝のラッシュ時間帯に全線で約20分間隔運転を実施。
- 2003年9月15日 丹生川駅前に戦前の貨車を保存・展示する「貨物鉄道博物館」を開館。
- 2003年10月1日 全線で昼間時間帯30分間隔運転を開始。近鉄富田22:40発西藤原行きを同23:11発に繰り下げ。
- 2004年3月24日 三里駅新築駅舎開業。
- 2004年5月2日 三里駅2階に三岐鉄道の車両をミニチュア模型とパネルで紹介する「三岐鉄道車輛大図鑑」開設（06年3月閉鎖）。
- 2006年4月29日 「三岐線1日乗り放題パス」発売開始。
- 2008年3月31日 旅客車両の冷房化率100%を達成。
- 2008年11月29日 近鉄富田駅西口駅舎を新築開業（翌年4月6日に開業式典）。
- 2009年10月1日 「三岐線1日乗り放題パス」に代わり、北勢線でも使用ができる「三岐鉄道1日乗り放題パス」の発売を開始。
- 2016年1月7日 西藤原駅前公園にて、桑名工業高等学校による「桑工ゆめ鉄道」の運行を開始。

■三岐鉄道 三岐線 乗車人員



青川橋梁を渡る三岐線の貨物列車

特集：地方鉄道の経営努力と公的支援

[地域の活力を支える三岐鉄道 三岐線・北勢線]



三岐線車両。鮮やかな黄色とオレンジ色が「三岐カラー」

北勢線

西桑名－阿下喜 20.4km・駅数 13

北勢線 リニューアルによる存続の取り組み

- 2000年 7月 3日 近畿日本鉄道が北勢線事業廃止を表明。
- 2000年 8月 3日 桑名・員弁広域連合構成自治体（桑名市・員弁郡・桑名郡各町）が「北勢線問題勉強会」に参加。
- 2001年 2月 2日 「近鉄北勢線利用促進協議会」が設置される。
- 2002年 2月 4日 桑名・員弁広域連合自治体協議会において、鉄道として存続させる方針を確認。
- 2002年 3月 18日 桑名・員弁広域連合長（桑名市長）が三岐鉄道へ鉄道存続への協力を要請。
- 2002年 3月 28日 桑名・員弁広域連合が三重県知事に対し、鉄道存続に対する支援を要請。
- 2002年 9月 4日 北勢線沿線市町（桑名市・東員町・員弁町・北勢町）が三岐鉄道に対して正式に北勢線運行を依頼。三岐鉄道は運行継承を決定。
- 2002年 11月 8日 「北勢線運営協議会」が設置される。
- 2002年 11月 11日 「北勢線対策室」が設置される。
- 2003年 4月 1日 近鉄が三岐鉄道に北勢線鉄道事業を譲渡。三岐鉄道による北勢線運営が開始される。
- 2003年 5月 5日 三岐カラーの新塗装車両が一部運行開始。
- 2003年 9月 1日 西桑名発 21：30 阿下喜行き最終列車を同発 23：00 に繰り下げ。
- 2004年 4月 1日 大泉東駅と長宮駅を廃止、両駅間に大泉駅を開業。六石駅を廃止。全 15 駅になる。大泉駅には地元農産物販売施設「うりぼう」が併設される。

北勢線への自治体負担金

(単位：千円)

	運営資金	補助金								
		2003～2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
桑名市	2,692,490	91,680	100,542	98,335	106,112	97,900	94,235	108,243	107,909	107,612
いなべ市	1,687,755	71,814	73,399	70,726	78,520	72,543	69,767	79,015	78,559	78,145
東員町	1,299,755	48,006	44,459	47,195	47,118	43,507	41,848	46,642	46,407	46,193
計	5,680,000	211,500	218,400	216,256	231,750	213,950	205,850	233,900	232,875	231,950

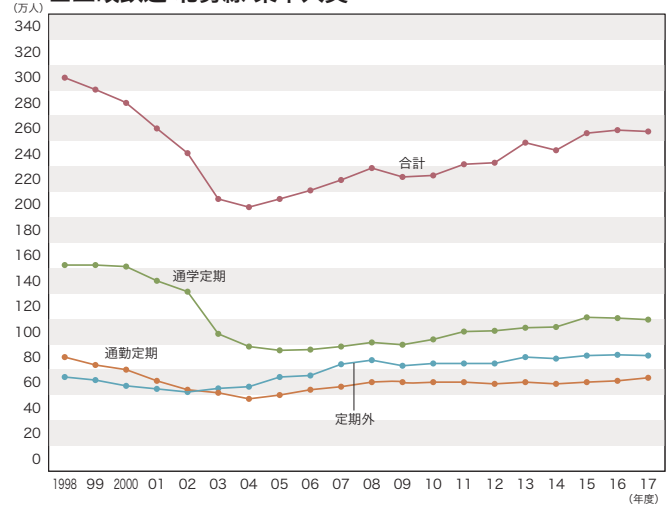
※2003年度については鉄道用地取得費 360,000千円を含む。
 ただし三重県の補助金 180,000千円があり、自治体の負担は実質 180,000千円となっている。
 従って、自治体の2003～2012年度の10年間負担金は、補助金 5,320,000千円、用地取得費 180,000千円、合計 5,500,000千円である。

自治体負担割合

	2003～2012年度	2013年度	2014～2015年度	2016～2018年度	2019～2021年度
桑名市	47.40%	44.80%	47.72%	47.31%	47.35%
いなべ市	29.72%	32.36%	32.08%	32.99%	32.95%
東員町	22.88%	22.84%	20.20%	19.70%	19.70%

※2013年度以降、上記の各自治体按分比率は固定資産税を除く補助金のみの負担割合
 ※北勢線に対する支援額の2市1町の負担割合は、①均等割②人口割③駅割④営業距離割の4項目により算出する。

三岐鉄道 北勢線 乗車人員



- 2004年 4月 13日 北勢線に関する鉄道活性化補助事業を行う第三セクター・北勢線施設整備株式会社が設立される。
- 2004年 5月 1日 交換駅（馬道・在良・七和・楚原）の左側通行工事完成。
- 2005年 1月 11日 全列車のワンマン運転開始。
- 2005年 3月 26日 坂井橋駅を廃止し、星川駅を新設。六把野駅・北大社駅を統廃合し、東員駅を新設。全 14 駅になる。
- 2005年 6月 24日 北勢線初の高速化改造電車（3編成）が運行を開始。
- 2006年 4月 1日 上笠田駅を廃止、全 13 駅になる。阿下喜駅 2 線化供用開始。
- 2006年 8月 4日 北勢線初の電車冷房化供用開始。
- 2007年 10月 30日 蓮花寺駅に自動改札機・券売機・精算機が設置され運用を開始する。これにより北勢線全駅の整備が完了。
- 2007年 12月 16日 阿下喜駅前の「軽便鉄道博物館」に、北勢線全線電化開業時に走行した軽便電車（モニ 220 型 226 号車）が移設される。
- 2008年 12月 20日 3編成が高速化改造され、運行を開始する。これにより北勢線車両全 7 編成の高速化改造が終了。



全国的にも珍しいナローゲージの北勢線

